

国民が人任せにするのではなく、自ら考えるように政治で促さなくてはならない。憲法の問題にしても、戦後アメリカから与えられた法律をなぜ後生大事にするのか。一切のものから我々を解き放ち本当の独立国をつくらなければ大変だと考えます。さて昨日、石原都知事ご夫妻と夕食をしました。戦争で夫を亡くしたある未亡人の方のうたで、「かく醜き国になりぬれば 捧げしいのちただに惜しまん」といううたを聞きました。年若くして結婚して夫を戦争で亡くしてもお国のためにがんばったんだと自分を励ましてきたのに、今思うとこんな国になってしまい彼らは何の為に亡くなってしまったのだろう。こんなうたであります。このうたを聞いて私たちは反省しなければならぬと思います。

今の日本の問題は、他人任せ、無責任、これを助長する国、地方の仕組みです。国会でも票を投じ可決した法案を、票を投じた人間が数年後には意見をまったく反対の意見を述べる。日本がそんなふうになってしまった。

しかし尖閣の問題や、地震より気付いてきつつあると思います。わたしは若者に期待しているから成人式に特に力を入れています。成人式の参加者に「これまでへの感謝を両親に伝えて下さい。それから両親を育てた日本に感謝を下さい。」と話し、戦争で亡くなった同じ二十歳の方の手紙を読みます。「お父さまお母さま、ただいま出撃の命令が出ました。自分は今から行ってまいります。元気に役立って見せます。本当はもう一度お会いしてお別れの言葉を申し上げたかったのですが、その暇(いとま)もありません。申し訳ありません。私のかばんの中には缶詰やお酒が入っております。軍から支給されたものをいつかみなさんと一緒に食べようと思って残してあったものです。

しかしそれも叶わぬ夢となりました。みなさんで召し上がって下さい。本当に長い間ありがとうございました。どうぞこれからもお元気で。ごきげんよう。さようなら。」

この話をして最後に「式を終えて乾杯もいいが、こういった人たちに感謝をして乾杯しよう。そうしたら本当の大人になって、背筋が伸び、新しい朝が生まれる」こう言います。遺書の力は偉大です。私は毎年この話をしますが毎回、すべて「ためになった」等の内容の手紙が届く。

我々に背骨を与えてくれるのは過去への感謝である。未来への希望は過去への感謝がないと生まれない。過去への感謝それは未来への責任感につながります。

靖国神社に行かないような政権は過去を大切にしている訳がなく、だから未来への責任感も生まれない。日本人は世界に期待されているのだからもっと前にでなければならぬ。

ロータリアンは、それぞれ自立と責任をお持ちのお立場で、それぞれ実践されている善良な経営者の方々と拝察しております。私も与えられた役割の中で日本のためにがんばりますが、**みんなのためになるかどうかの公への奉仕を掲げるロータリアンの皆様も、誰も人任せでやろうとしない「甘えの時代」だからこそ日本を救うそれぞれの努力をお願いしたいと思います。** だいぶ時間がオーバーしてしまいましたが、ご静聴ありがとうございました。 (2012年5月15日(火)びわ亭にて)

 **ニコニコBOX**

池田 清会員

家内の誕生祝いをクラブの皆様にお祝いしていただき ありがとうございます。これからも よろしくお願ひいたします。



ロータリーの実践倫理

「最もよく奉仕するものは、最もよく報われる」 He profits most who serves best.

《会報・IT・雑誌
・広報委員会》

委員長：伊藤 剛迪
委員：平田 洋一

副委員長：大川 隆永
委員：高崎 卓哉

社会奉仕基金
4,341円

WEEKLY REP  RT

国際ロータリー第2790地区第12分区
松戸北ロータリークラブ



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

2011-2012 国際ロータリー・テーマ

四つのテスト

- 言行はこれに照らしてから
- 1・真実かどうか
 - 2・みんなに公平か
 - 3・好意と友情を深めるか
 - 4・みんなのためになるかどうか

第1917回 移動例会 (第 42 週) 2012年 5月15日(火) びわ亭

国際ロータリー会長カルヤン・パネルジー
第2790地区ガバナー 山田修平
第12分区ガバナー補佐 安井克一
松戸北ロータリークラブ会長 鈴木悦朗
松戸北ロータリークラブ幹事 兎山守治

例会日 - 毎週火曜日12:30より(第1例会18:30)
例会場 - 松戸市根木内249-7 北小金ボウル1F
事務所 - 松戸市根木内249-7 株山安内
TEL/FAX - 047-344-5696 / 047-344-5696
Web/Mail - www.rc2790-12.jp / kanji@rc2790-12.jp

The Ideal of Service (奉仕の理想) にむけて夢を追いかけよう

 会長挨拶：鈴木悦朗

新緑が美しい風薫る季節となりました。明日はうちの幼稚園で親子遠足。暑くもなく寒くもなく出かけるのにちょうどいい季節です。

さて、今日は、元杉並区長で現在大阪市の橋下市長のもとで、特別顧問の山田 宏さんを卓話にお迎えいたしました。山田さんは細川連立内閣のときに日本新党の幹事長として、各党の調整役をつとめ、また杉並区の区長として11年間、負債削減とサービス向上、教育改革に尽力された方です。

また、私もいろいろな方の演説を聴きましたが、しっかりと国家経営のビジョンを持ち、正論でぶれがなく、説得力があります。ロータリーは、経営者、リーダーの集まりで、よき経営の勉強会でもあります。今日は、「これからの日本で大切にすべきもの」について山田 宏さんのお話をどうぞたっぷりとお聞き下さい。

「これからの日本をよくするために」

元杉並区長・大阪市特別顧問 山田 宏様

鈴木会長に過分なご紹介をいただきました山田宏と申します。私も杉並にあるロータリークラブの名誉会員になっております。ご紹介いただきましたように、平成元年より11年間、杉並区長を務めさせていただきました。就任した頃は杉並区は942億円もの巨額の借金がありました。私が辞めるときには、180億円以下になりました。また19億円であった貯金が、230億円まで増え、杉並区の区民税を10パーセント下げたための基金ができました。

そのためにはほとんどの商店会から反対されながらも、説得しレジ袋税を創設したりもしました。

職員が定年退職しても、不補充とし、10年間で公務員数4,000人から1,000人減らしました。



職員を減らすと行政サービスの低下になると根強い危惧の声がありましたが、そんなことをいってられない負債額でしたのでぶれずに実行いたしました。やってみると行政サービスの低下どころか、職員を減らすことによりサービスが向上いたしました。

職員数とサービスは比例しない。行政の場合は減らすことにより一定のサービス向上につながり、税金も安くなる。そして、職員も生き活きとして新しいサービスも出来るんです。

現在、国家公務員数は64万人、全国の地方公務員数は250万人。私は、10年間で3分の1にすべきだと思います。

改革で大切なことは、原則を決めて例外なく一気に行きること。私が1番最初にやったことは、区の予算を15%一律削減。杉並をモデルに全国に広めたいと皆さんに説得しました。

現在の民主党のようにパラマキ、なんでもかんでも餌を配るようなことはしない。

まず、自分の身を削り、少し余裕がでたら餌。そうやってきましたが、当時の国は、麻生内閣のときに定額給付金を配りました。2兆円もあるならもっと使い道があるはずだと私を始め、多くの方が苦言を呈し、山田それが正論だとする声が区民をはじめ、全国から来ました。しかし、定額給付金の給付が開始するとなぜ杉並区は配らないのかという区民から苦情が一気に増えました。

区民の声が支持から批判へとかわった。どういうことなのか。

人間の心には、そんなことは良くないという「正気」と、もらえるものは貰っておこうという「欲」があります。自治体経営というのは、その人間の心のどちらを促すかである。

人間の自尊心をくすぐる政策が大切である。常々そう思って経営してきました。

しかし自治体がいくらがんばっても国家財政が巨額の借金を抱え、危機に瀕しているときに、国が、民主党が甘い汁を出して国民を誘惑してしま

う。このままでは日本がおかしくなる。自分で会社経営をしている皆様だったらおわかりだと思います。地域にもっとも近い自治体の首長からするとそんなことをしたらいずれ破綻するという責任のない政策がまかり通っているんです。

だから自治体の首長・地方議員が集まって危機感をもって、元横浜市長の中田宏さんらとともに日本創新党という党をつくった。しかし時期尚早、自分の党はうまくはいきませんでした。このたび橋下さんがつくった大阪維新の会は、最初は大阪都構想の実現ではありますが、同じような志を持った党を作り理念はほとんど変わりません。

今の日本には多くの課題があります。震災の瓦礫処理、年金破綻、借金が千兆円を超えた、原発の上に使い古した燃料庫があり、それが悪影響を及ぼすなど問題はたくさんあり、わかっているのに、今の日本は生活だけ豊かにして**「いつかだれかがどこかでやってくれる」**そんなふうを考えている。そんな政治があるのか。毎年歳出される1兆円もの無駄な医療費の削減、それに関しても誰も手を下さない。

平成2年の幼児虐待の相談1,100件が、平成22年では55,000件を越え、平成2年の自殺者数21,000件が現在は31,000件を超えています。これもまた**「いつかだれかがどこかでやってくれる」**とみんな他人任せで無責任。

この政策の集大成が現在の政権を選んだ国民ではなからうか。

これらの問題について「いつか誰かが」ではなく、**「いまここで自分が」という意識をみんなが持ち始めなければ、日本は沈没してしまう。**

私は、まだ日本はこの危機を乗り越え、経済発展が可能だと考えています。そのかわり、生半可な政策ではない。経済政策に競争力をつける。日本国民が一丸となって取り組む。TPPの政策も反対は多いが、改革をして競争環境を整えるべきです。

日本人は戦後、自分の国を自分で守らなくなったせいで、日本人は自立心をもたなくなりました。自分の国を他国に守らせておいていいのか。日本にどれだけアメリカ軍の基地があるかご存じでしょうか。200以上もあるんです。自分の国は自分で守るべきです。憲法も権利ばかり主張し、義務は殆ど果たさない。これも問題です。

余談ですが、橋下さんはなかなか面白い人です。28人の特別顧問、役所の本部長クラスみんなにメールを一斉配信、自分はこう思うと首長としての意見を言って、みんなの意見を聞くというやり方です。すべてがガラス張り。だから稟議書をあげて意志決定に時間がかからない。また、もし自分が誤りだと気づくと自分の誤りは、そのメールで即正す。とても謙虚で柔軟です。今マスコミ等に大きく国政に期待されていますが、橋下市長は、「橋下バブルだよ。長い間は続かない。せいぜい3・4年でしょう」といい、まず、大阪市長という自分の責務まずやりとげるといったそんな人間です。

「自立と責任という世界」に変えようという思いは一緒で、そのために国の仕組みを変えたい。今は政治も行政も責任を持ってない仕組みになっている。例えば、区や市が保育所をつくるにも、現状では国や県や都、区や市が関わってくる。お金の面で国の制度や都・県の制度をつかうといったすべて人任せの状態であり、使えるものは使っておこう。そのことに関し、政治にも行政にも責任をとるシステムとなっていない。地域と国との関係がすべてそんな感じ。だから**「首相公選制」**にすべきだと橋下さんは訴えている。そして道州制にして、国の仕事は国で地方の仕事は地方に責任を負わす。税金も地方ごとに徴収するという方向に変えるべき。責任ある経営ができるようしなければならぬと思います。

(次ページにつづく)



ロータリーの奉仕哲学「超我の奉仕」Service above self

このServiceの意味は人のためにつくすこと。ビジネスでもServiceの心がけはシェルドンの言葉を借りれば「永続的な顧客を得る道」であり、信用を増して繁栄への道につながる。